



(題字 吉岡 弥生)

復刊第10号

日本女医会

第七回総会開催について

会長 佐藤 や い

去る六月十七日、第七回日本女医会総会が、東京都において開催されました。例年は秋に開催する慣わしでありましたが、今年は突然時期を早めたにもかかわらず、多数会員諸姉の皆様とともに、種々貴重な意見の交換ができ、今後の日本女医会発展のために、まことに有意義なる会合を持つことができた事は、役員一同感謝に堪えない次第であります。

日本女医会発足以来、医療に携わる私共会員の最適當なる時期をという事で、毎年秋十一月に定時総会を開催いたしておりましたが、今年は特に、目前に迫る「マニラ」の国際女医会総会に関する諸条件につき協議を要するため、開催期日を繰上げて前記の通り六月十七日、東京女子医科大学新講堂において開催いたしました。その主なる理由は、一九六二年(昭和三十七年)十二月三十日より翌年一月七日まで、フィリピン・マニラ市で国際女医会総会が開催される事であり、これはすでに前年度において、小野春生女史(国際連絡書記)より詳細にわたって

第七回日本女医会総会

栗原久子

例年秋に開催されていたが緊急議事により、六月十七日午後二時より東京女子医大新講堂において行われた。総会通知発送数三四五一、出席人数七五、記名委任状五四六、白紙委任状八五九、合計一四七〇、総会成立という事ではじめられた。

総会次第

- 司会 森 千鶴
- 一、会長の挨拶 佐藤やい(別記)
- 一、庶務報告 小俣喜久子
- 一、国際女医会報告 小野 春生
- 一、会計報告 佐藤イコヨ
- 昭和三十六年度決算報告
- 昭和三十七年度予算報告
- 一、議 題
- 1 会費値上げの件
- 2 国際女医会資金準備の件
- 3 会則改正の件、その他(別記)
- 一、閉会の挨拶 森 千鶴

以上の順序で議長に佐藤やい会長と決定、会をすすめる。

庶務報告、常任理事会八回、理事会五回、評議員会(五月十三日)、渡航打合せ会二回、編集会二回行なう。主なる議事、国際女医会の件、会費値上げの件、会則改正、会計決算並びに予算の件、等々。なお三十六年末全会員に名簿寄贈する。死亡者 宮崎ハルエ(神奈川) 吉田スエ(徳島) 原田弥(大阪) 神坂伊佐恵(秋田) 堀口文(豊島) 五名に對し黙禱。

会計報告、三十六年度決算報告の説明あり、本年度は名簿発送(三年に一回)のため約四十七万を要した。今後は予算に組入れ支出していく方針であるとの報告であった。

なお国際会費及び渉外費として合計

約十九万の支出になっており、今年はバーデン会の会員の方々より相当額を負担されたのである。本年末マニラ総会の前夜、外人客が来日の予定になっており、国際女医会資金を準備する必要がある。本年度決算で翌年度への繰越金が五万足らずの心細い現状からみて、従来五百円会費を本年度より千円値上げのやむなき事の報告あり、万場一致可決された。(前回会誌にも会費の件につき掲載)但し評議員会で卒業後三年間は五百円ということに決議されており、総会席上でも承認をとの報告に對し、異議なく賛意。

以上佐藤イコヨ会計理事の説明により、予算、決算並びに会費値上げの議事は難なく承認を得られた。

国際女医会資金準備の件(別記)

①女医会費何年前納して貰う方法

②篤志の方に御寄附を願う方法

以上の説明あり、理事会では前納する場合、会費を何割か引いてはとの意見も付け加えられた。

森川氏、十九年間納入賛成、割引きについてはこれを寄附という形にしては如何。

花岡氏、各種団体に寄附を依頼しては如何。

坂元氏、十年前納の場合二割引きして等の発言あり。

小野氏、会費三百円を値上げする時に、国際女医会費二百円を含み五百円案がとられた。会員総数では相当の渉外費がとられるはずであるが今回の予算もわずか二十万である。十年納入の場合の割引額も是非寄附にして頂き準備金にあててほしい。

賛否の結果、割引きなしの十年前納老万円ということに決定。

会則改正の件(別記)

来年度総会の時期と場所について。佐藤会長より今回の総会は急であつたため、何もアトラクション的なものができなかったことは残念であつた。女医会に對する関心は以前から比べると盛り上つておると思ふ。来年の総会の時期と場所を予定しておきたい。

岸氏、地方では小・中学校の身体検査があり、四・五月は出席しにくい。佐藤イコヨ氏、決算、予算からは早い方がよい。との発言により六月総会開催に一同賛意。

なお会長より、一昨年は大阪で総会を行った際非常に御骨折りいただいたので、明年度は関東地区(箱根あたり)の慰安旅行をかねて開催しては如何かと思ふ。よく理事会で検討してみるとつけかわえられた。

以上森千鶴氏の閉会の挨拶あり議事を終了。同講堂の一隅に用意されたお茶で休憩し、午後四時半散会となった。

日本女医会会則変更について

大村ひさゑ

自分の生命、いや祖国の存否にかかわるであろう憲法の改正についてさえも、まことにわれ関せずである人の多

い世の中である。有識者をもって自他ともに容認している医師の中になつて、生活に直結する医師会の定款につ

いても関心をもちたないのが普通らしい。ましてや財団法人でも社団法人でもない日本女医会の会則の変更など：：と思っておられる方々もあろうかと考へると少々なげないでもないが、しかし日本に唯一つしかない女医の大団体、国際的にも認められている日本女医会の会則である、と理事会は意気あたらたして変更方を総会に提案した次第である。改正の主項目は左の通りである。

一、評議員の件
一、会費値上げの件

一、その他字句及び条項並列変更

まず最初に評議のところで「評議員は正副会長、理事及び地方の支部長をもつてこれにあつて」と改め、今までの副支部長を削つた。その理由は旧会則によつて評議員数が過多で不定で(地方によつては二人も三人も副支部長があるので)あつたために評議員の三分の一以上の出席をもつて評議員会を成立と定めてあつても不可能に近い状態になつたことと、なお附加理由として旧会則に副支部長をも評議員とするとしたゆゑは日本女医会再発足に當つて念願としたのは全国女医の団結をはかることであつたが、発足当時の支部長には一応その土地での古参株が推される等のことから、東京女子医学出身者とその位置を占めるものが多い傾向があつた。役員がある一校出身者に偏るようなことになつては折角の団結の目的が薄らぎはしないかの憂いから副支部長をも加えて公平を期したのである。が現在ではもはや支部でも何回かの改選も行なわれ、支部長も古参女医に限られてもいない様子である。

ゆゑに支部長一人に絞つての役員名もなん等の禍もきたさないだろうというところになつた。そして地方に一人の評議員ともなれば会への出欠、委任状

等も必ず責任をもつてくれるだろうし、総会に次ぐ立派な評議員会も成立し、会の運営も活潑になることと思ふからである。

次は会費値上げの件。会費は一年壹千円とする。但し卒業後三カ年間は五百円とする。と改正された。

この理由は会計報告の示す通りで、もはや年五百円ではどうも本部で使用している室料も燃料料も全部至誠会に負つてもらつていて、五月末現在四万円しか残つていない会計である。会費納入率六〇%がこの結果となつたのである。

「日本女医会に会費を払つても一寸も自分の得にならなくてつまらない」とおっしゃるような方には千円なんてトンデモナイとケンモホロかも知れないし、そんな方は五百円の会費だつて未払い、かも知れない。が年千円の会費は月八十円位のものである。月八十円が多い「もうけ」を得ようなどとは天下の女医先生方それほどガマツイとも思われぬ。八十円距離の車代を一度節約して会へ捨てるべき度い。その陰徳として国際的に進出しようとする日本女医会のメンバーという名を拾ひたいだけ度いという理由である。

国際女医会に加盟しているおかげでもはや何回か何十人か国際場裡に進出し、相当の友好をおさめて来たことは度々の報告にある通りである。この秋にもまた二十何人かマニラに開かれる国際女医会に出かけられることになつた。そして出先ではまたそれぞれにお世話になることと思ふ。

それと各国の女医がマニラの帰りに日本に立寄り度いと申出て来てもらふ。これがおつきあいというものだろう。御来客に対しては恥にならない程度のおもてなしはしなければならぬ。出先で子供が世話になつたんだ

から先方から見ればその子供だけがお相手すればよいなどとはいつておれない。家族総意のまごころが何よりのお慶びというもの。だからそのためにも会としては資金が必要である。

その上国際女医会からせよこの際日本から副会長として立候補せよとの通知があり、特にフランスが強力に推薦してくれているとのことでもある。

一方これほど多数の会員(各国では日本の女医数の多いのに驚いている)を持つていては面子にもかかわるし、とはいへ年に一回大体欧州で開催の理事会には必ず出席の義務があるという役柄、四年間毎の改選では少なくとも同一人が四回は欧州に出かけなければならぬ。時間と費用、時間ともあれ毎回を自己負担では余りにも犠牲が多すぎる、といつても、時間と金のありあがる人、必ずしも日本の代表となることができないかの問題もある。

今やわれわれは会費の中から代表者の渡航費だけでも捻出して、出かけて貰いたいのである。

ここで会費納入の内規として十年間の前納方法が決定した。

一年千円の会費を十年分、即ち、壹万円前納してくれる会員が千人あれば壹千円となる。この利潤でなんとか年納めはつづく。前納不能の方々は毎年納めていただくことで会の運営はできる。

この前納方法が決定するとすぐ総会出席者の中から前納者が出てくれて理事者大変喜んでゐる次第である。

なお海外費に當る意味で寄附の項も大きくとりあげた。現在まで日本女医会の名の下に渡航された方々からはもう何回も寄附していただいで外国女医の応待に供して来たが今後何らかのお願いしなければならぬと思うし、そのほか志のある方からはドンドン御

寄附がいただけたら非常に有難いと思つてゐる。

会則改正の最後にも一つ大切なことは総会成立の出席数についてである。旧会則には四分の一以上と唱えてあつたが出席不振のため成立に不安を感じることが度々なので五分の一以上、と訂正して可決した。

そのほか旧四条を六条に旧五条を十

米 国 医 科 大 学 に お け る

女 子 学 生 の 学 業 成 績 か ら ……………

大 阪 大 原 一 枝

条に、従つて旧六条は四条に旧七条は五条に旧八条は七条に旧九条は八条に旧十条は九条に交替した。尚前述改正事項や条項交替のためにそれれ字句の訂正、追加等ができましたがいずれも大多数の賛成を得て懸案の会則改正ができたので、ここに御報告と同時に一部を御送りする次第である。

つい先頃、他の用件でひらいて見た米女医会誌 Journal of the American Women's Association の中で、ふと、米国医科大学における女子学生の卒業成績についての小文を発見した。

ざつと目を通すと、女子学生の成績の優秀さが数字で現わしてある。一九五九年度の統計でいささか古すぎた恐縮であるが、さりとて新しい資料が手許に無いので、そのまま日本女医会員のみなさんに紹介することにした。

一九五五年、米国の共学制医科大学八十二校のうち、二十三校において女子学生が優等で卒業した。共学制でない、唯一の女子医育成機関であるペンシルヴェニア女子医科大学における優等卒業生四名をふくめて、首席で卒業したものは十二名、成績順位一〇パーセント以内の優秀な成績で卒業したものは二十二名、合計三十四名の女子医学士が優等の成績を示した。

これら優等卒業生を出した二十三校の卒業生総数は二、〇三八名で、その

中女子の数は一〇八名(五・五%)であるから、全卒業生の一・七%、女子卒業生の三・八・三%が優等の成績で卒業したという。

× × ×

米国におけるわれわれの同僚の若き世代が示したこの素晴らしい数字は、誠に心強い限りであるが、この数字が女子の真の実力を示すものか否かは、充分考へてみる必要がある。

わが国においても、戦後共学制が実施され、男女教育の機会均等が実現し、共学制の各大学において、女子が優秀な成績を示し、はなはだしきは東京大、京大、阪大などの一流国立大学の卒業式の総代に、首席の故をもつて女子学生がえらばれるというような事を見聞きする。

同性として誠にうれいことである。しかしながらこの現象を手離して喜んではいかどうかは疑問である。ならば女子学生は真面目に勉強するから、在学中は男子に伍して遜色を示さない。しかしながら実際に人が真価を

發揮するのは卒業後の社会生活である。学園において優秀な女子も社会に出た後は埋もれて了う。

人それぞれに好む道を行くのであるから、人間としての幸福を求めて医業を捨てた人もあろう。それはそれでよいのであるが、もし社会に優秀な女子医学生の進路を阻むものがあるとすれば、それを取り除き、充分にその才能を伸ばし得る環境を育成しなければならぬ。

エリザベス・ブラックウェルにより、又わが国では吉岡、福井その他の大先輩によって開拓された平坦な道を歩ませて貰ったわれわれは、ポツポツ身辺を顧みただけでなく、広く社会に眼を向けて、後進の歩みを見守ってやるべきである。

米国女医会にはジュニア・ブランドがある。日本女医会も今や充実し、相当の余力を有するようになった。ポツポツ将来本会員となる若き世代に手を伸ばし、由広の年令層を持つ、有機的に活動し得る、若々しい団体に成長したいものである。

埼玉支部会の記

六月十七日、連日の雨脚を、カラリと追い払って、すがすがしい梅雨晴れまさに女医会日和です。

この日、浦和の武蔵野荘で、本部から佐堂先生、中西先生の御来駕を迎え埼玉支部会が開催されました。見る限り、青葉の杜、そして今日を祝うかのようになつて花を充たしています。定刻午後一時から、続々と会員集合の貌も、はち切れる様な活動性と俾を充たして。

埼玉県は地域が広く、それに、東京の隣接県とも思われぬ交通の不便なところもありますのに、それらを押して出席される会員の方々に、主催者

として感謝のほかありません。午後一時半、型のごとく、島田春枝姉の司会によって、会首挨拶。会務報告を終え、

一、吹米体育視察談 美濃部先生
一、アデノウイルスの感染症について 東邦医大教授 大岡先生

の有益な講演を拝聴しました。狭い田舎住いのわれわれは、一挙に世界の檜舞台に、又学究の世界に引きあげられた想いでございます。講師に感謝の言葉がありません。



→(当日の記念撮影)

会終了後、一同会食、ビールの泡に友情盛りあげ、話は尽くる処なき楽しい時間でございましたが、遠方からの来会者もある事として、心ならずも散会。惜しい秋をわかつた事でした。

なお、この会では、至誠会、鶴風会の同窓会をかねて開催していますことを申添えます。(東ヨリ)

思うままに

山崎倫子

去る六月十七日の日本女医会総会に出席して、また日本女医会誌第九号を読んだ感に少し述べさせていただきます。まず、日本女医会の魅力のないことを痛切に感じました。総会前の同窓友人を誘ったが面白くないから出席しないことわられたのです。これが、これは興味を持ってなくとも当たり前だと思えました。(突然秋にあるべき総会を繰上げて臨時総会としたため準備その他不行届きの説明はあつたが)会員数三、〇〇〇余人と聞いていたが出席者は六〇〇人足らず、そのほとんどが会長、副会長以下理事、評議員等なんらかの役員と見受けられ平会員は私を含めて何人いたでしょうか。

会誌九号の評議員会議事録、日本女医会の在り方、世界一の女医会にしよう等の記事大変結構でしたが一体どれだけの方々がどれだけ真剣に読んで下さるか。私達のほとんどは地域医師会員であると同時に、日本医師会に加入しています。そしてなん等かの形で Give and take の恩恵と便宜を与えられていきます。しかし日本女医会員として一部特定の人員を除いて、一体何のあるいはどのような便宜、恩恵、誇りその他を得ているのでしょうか。終戦後再発足以来数年たつた今、そろそろ会費の徴収とさきやかな会誌の発刊以外の飛躍があつてもよいのではないのでしょうか。もち論論外へ視察旅行をさせたり、会議に参加された方々は随分と得る事があつたでしょうし、日本女医会代表という肩書で便宜も尊敬も受けられたでしょう。しかし、会員のほとんどは会費を払うだけでほとんど魅

力を感じていないのが悲しいけれど実情であることは認めざるを得ないと思ひます。

もつと魅力のある日本女医会にするにはどうしたらよいでしょうか。皆で考え、意見を出しあい、取り上げられるものを取り上げていただきたいと思ひます。もつともほとんどの会員は多忙な診療あるいは研究生活に追われ、なおかつそれ以外にも諸々の活動に参加している現状ではなかなか時間を生み出すことはむずかしいかも知れませんが、橋本恵美子女史の記事で大坂支部における活動を知り非常な感銘を受けました。日本女医会に関心を持つて貰うためには、もつと地域における呼びかけが必要ではないでしょうか。人から人への PR が重要だと思ひます。そしてせつ々しく出席したからには少しでも楽しかつたとか、ためになつたとか、得をしたとか……何か残るものが欲しいと思ひます。

もち論そのような企画、演出は非常にむずかしいと思ひますが、役員の方々の一層の努力をお願いしたいと思ひます。更に前進するために小野女史が述べられたように会員全部がもつと積極的に協力しなければならぬと考へます。私自身できる事があれば御役に立ちたいと数年来申出てあります。が、幸か不幸か御役に立つ機会はないようです。

元万国女医会長リード女史が始めて来日された時、今は亡き吉岡弥生先生の御供として羽田空港に出迎え、歓迎会を開いた当時を想ひ出すと、その頃の方が皆もつと真剣だつたように思わ

れます。もつとも珍らしさもあつたでしょうが。

この春、ソ聯の宇宙飛行士ガガーリン少佐が夫人同伴で来日され、夫人は女医ということでありました。ソ聯における女医の地位、活動について聞いたり日本女医会の姿など紹介したりきたら面白かつたろうと思つてみました。又最近印度の保健大臣が来日中で、日本の家族計画、婦人問題に特に関心を持っていられるようですが、日本女医会としても接触をもつて置くことは何かの意味があつたのではないのでしょうか。あるいは日本女医会が海外で見聞してきたことのエッセンスをもつと適接有効に報告していただければこれも役に立つでしょう。昔から医者はとかく視野が狭いといわれてきましたが、私達はもつと機会を作り広く知識を吸収し、常識豊かな社会人になりたいと思ひます。ただ黙って待つてゐるのではなく、進んで求め、PRし、会員相互の親睦と向上発展につとめ日本女医会の存在を意義あらしめたいと願うのです。

卒業学校、地域、職域、生活程度等の違いを乗り越えて団結し、協力し、世界の日本女医会として自他共に誇りを持つてゐるようになるためにいさかでも役に立ちたいと願うゆゑに、若輩をかえりみず大変生意氣なことを書き述べました。役員各位の御活躍に感謝するとともに会員諸姉の奮起を期待するものです。(経済的裏付がないために日本女医会の発展が随分阻ばれてゐるようです。会員の皆様の会費の値上げを了承し会員のすべてが会費を払うように、できれば五分分でも十年分でも先払いして協力致しましょう。)

(昭和三十七年七月一八日記)

要領の悪いお話

小 野 春 生

毎日暑い日が続きますので暑さが頭に
来たたと申しましょか、この頃面白
い事を考えて過しておきますので、そ
の解決につき皆様にお教えをお願いし
たいと存じます。

その面白い事と申しますのは、文明
が進むにつれて人間がますますいそが
しくなるといふことです。もち論文明
の美点は数知れず多いことはよく存じ
ておりますが、その欠点は時間の不足
といましようか、不幸にして一日は
二十四時間、それを何とか有効に用い
るのが文明人なのでしよう。私が入局
致しました頃私の手をとって導びいて
下さった大先生がよく「小野君、年を
取るといそがしくなるよ。一番欲しい
物は時間だよ」とおっしゃっていらっ
しゃいました。その頃はよく勉強し、
よく遊んでなお時間をもてあそぶ程で
はございませんでしたが、でも楽しい
毎日を過ごしておる先生は一人御自分
をいそがしくしていらつしやるのでは
ないかしら、いそがしいのがおすきな
のではないかしら、等と生意気な事を
考えておりました。十年たった本日先
生のお言葉がいかに本当であることが
身にしみてわかりましたと同時に、ま
だ三十代でこれでは大変失礼ですが先
輩の大先生の年になつたらどうなるこ
とやらと不安な気持ちになりましたので
大先生方の御教えをお願いしたいと存
じます。

参りますと病室で看護婦を全員つかえ
ますので他の先生が来る前に行く事に
しました。女医がとかく女であるから
馬鹿にする医師の方が強いでなく、私
の経験では外国の方が強いのです。
これは嫉妬心でしょうか外国の女医は
男より三倍働いて同格に見られ、四倍
働いてやつと認められ、尊敬されるに
は六倍働かなくては行かないと言つて
いました。その原理で四倍と行かなか
とも、三倍位はと考えながら一日こま
ねずみのようにと申してもこの大きな
身体で何か何をしてもうぜんとして
いるのかのようにしか見えません。そ
こで文明の力、電話がかかるのです。
診察中に勉強中に一日中モンモンと言
うことになりました。お手紙をいただき
筆不精な私がお返事を書くよりましで
すが、子供が蟻に刺された、熱を出し
た、ボタンのんだ、等々その上お人
よしは困つたもので患者の夏休みアル
バイト、就職の世話まで引受けてしま
うのでますますリンリン電話が鳴りひ
びく事になります。午後は病院でなく
れば外を飛び歩き時間がないのでタク
シーでとなると交通麻痺、外国の友達
の友達が来たからと言つて東京案内、
人様の翻訳、お友達にも逢いたい等々
で一日がオヤツと言つて間に過ぎてしま
います。まあ好きでいそがしくしてい
るのではないでしようかと言えばそれ
きりでない事、まだまだしなくては
いけないが、まだだしなくては
と思ひながら十一時十二時に床につ
くことになりまふ。睡眠時間を少なく
するが余程要領が悪いのかと言つ結論
になるのですが……。

国外の連絡はおよばずながら私がいた
しましたが、国内の事はすべて佐藤会
長先生と事務の小川さんをお願いして
しまつたのです。今度は私一人ででき
るだけしてみましようと思ひましてい
ろいろとやりかたをお教えいただきたい
のですが、表面はごく簡単ですが裏は
大変時間がかかることばかり、まず外
貨のことで各省へ幾回か足をほこび頭
を下げる事から初まるといふので
すが、あのようにおいそがしい佐藤先
生、前にロンドンへいらつしやつた竜
先生、いかにしてその時間があつたか
と頭が下るばかりです。マニラの会長
のデル・ムンド先生が日本大使に逢つ
て日本からぜひ国際女医会に出席でき
よう便宜を計つて下さいと頼んで下
さいました。普段でも五時起床、病院、
大学のお講義、女医会等で朝食はコー
ヒーかジュース、昼食は自動車の中で
サンドウィッチでない時間がないとい
うほどいそがしい先生が私共のため
に大使に逢つて下さつたと思うと自分
のいたらなさを痛感させられました。
ジュネーバー本部のピーターソンも、
きかひがある日本女医会のために日
本代表で国連に出席なさる厚生省の方
に日本の女医の面倒を見てやつてくれ
と言つて下さいます。その結果外務省
へ何つたりお手紙を書いていただいた
り佐藤先生にいろいろと御面倒をおか
けしたり申しわけないと思つておりま
す。

先日も外国から数多くの女史がいら
つしやいますので何とか日本女医会に
もと思つて、はなはだ勝手ながら私一
人での日程をさぐつてみるのですが
何しろ国費でいらつしやるので一時間
の余裕もないほど日程がつかまつてい
るのです。そこをお願いするには会長又
は副会長先生が幾回となく足をほこ
び、ますますいそがしい思いをおさせ
する事になりますので口に出す事がで
きませんでした。そこで考えるので
す、時間の都合のつく先生方がいらつ
しやいましたらそのような Committee
(部) を作りまして、いろいろと
活動をしたら日本女医会がもっと発展
するのではないかと思ひます。いかが
でしよう。

此度マニラの総会の行きか帰りに外
国女医が多数お見えになることでし
う。そこで外国語のできる先生方、で
きななくてもぜひ逢いたい先生方の御協
力をお願いしたいのです。国内で外国語
を勉強なさつた先生、又外国へいらつ
しやつた先生はぜひできる外国語を記
入の上本部へお葉書一本(お上手で
なくても結構です)願います。又外国
女医に外国語がでなくとも逢いたい
先生方もぜひ本部へお葉書を下されば
会のある時は必ず御知らせを差上げま
す。このように御協力の意志をお示し
下されば女医会のためにもなりますし
発展致しますでしよう。ただただ理事
が何とかしてくれようとお互にいそ
がしい先生方ばかりでは何と云ふこと
もない会になつてしまひます。又会の
運営を又発展をするためには会費をお
納め下さらないと困りますことは皆様
充分に御存知のごとくでございます。
私共の会を私共で良い会にするには皆
が協力しなければと願ひするしだい
でございます。皆が誰かがして下さる
からといつてゆつくり坐つていらして
はいつまでたつてもこのままです。そ
こで第一番に十年分の会費を来月中に
出していただければ何よりです。第二
に御自分のことを、できることはお手伝
いしたいことを、又御意見をどしどし
本部へお送り下さいませ。

お話は少し横道にそれましたが、私
も女医会のために、社会のために又は
自分個人のためにしたいことが山のよ
うにございますが、どうしたら全部で
きるように時間が取れるかを考えてお
りますが、大先輩の先生方何とか要領
がよくなる方法をお教え願えれば何よ
りでございます。

はなはだ勝手なお願ひでございます
が後輩のためとおぼしめし御指導下さ
いませ。

『日本女医史』 印刷進む

福田 幹子

延引につぐ延引で、この出版に熱意
と御協力を寄せられた皆様、申訳な
い日々の堆積から、やがて躁鬱症にと
り憑かれるのではないかと思つほどの
苦しい朝夕でしたが、今日(七月三十
一日現在)、かねて組版中の中央公論
社にて本文百二十八頁まで出版、執筆
者秋山氏も、酷暑の中を終日書齋に籠
れることを確認いたしました。この朗
報に、私の枯水渦むかと思われた老骨
も、にわかに息吹きかえしたかのよう
に元気を回復しつつあります。
これひとえに、皆様の御寛容支持
のおかげと深く肝銘しております。
おそろく九月中旬には製本完了、御
期待にこたへ得ることと存じますので、
ここに御詫ごとく御報告を兼ね、この際
まだ御予約無き方々の御申込を、切に
お願い申上げる次第でございます。
印刷費並製本其の他値上りするため
やむを得ず百円値上げすることにな
りました。すでに送金済の方は八百
円ですが今から申込まれる場合は九
百円になりますから御了承下さい。

昭和三十七年八月十日印刷
昭和三十七年八月十五日発行
編集人 福 田 幹
発行人 日 本 女 医 会
東京都新宿区市ヶ谷河田町19
日 本 女 医 会
印刷所 東京都港区麻布田島町63
福田印刷株式会社